

各地域事業についての主な意見

(第2～4回分科会の全体討議での各グループ発表の概要)

【分野Ⅰ かがやくまち】

- ・主に「六本木安全安心プロジェクト」について課題があがった。
- ・生活安全だけでなく、防災についても、様々な課題があり、その課題をどのように周知していくのが非常に難しい。周知というときに、誰をターゲットにしていくのかをはっきりさせないといけない。
- ・支援部での取組と重複しない、麻布地区独自でやっていけることを認識して、それらの点について取り組んでいくべき。

■六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

- ・六本木なので客引きとかお店の看板で通行や自転車が危ないという問題。あと喫煙によるポイ捨て、外国人や日本人、区外の方が多いので、そういった方々に「六本木安全安心プロジェクト」の取組をどのように周知させるのかというのが非常に難しいというのが課題。
- ・六本木地区における課題のうち、自転車に関する課題についての意見が多く出た。自転車の危険走行についても課題として認識し、対応を考えるべきではないか。
- ・まちのルールとして「六本木安全安心憲章」はあるが、注意や指導をする権限というのが誰にでもあるわけではない。ルール違反を誰が注意するのかという課題もある。
- ・全庁的な取組として「みなとタバコルール」があり、「六本木安全安心憲章」でも路上喫煙の禁止をうたっている。支援部での取組と重複している部分について、どのように推進していくのか、その関係性等を整理していく必要がある。
- ・「六本木安全安心憲章」をより一層、地域に浸透させていくためには、現状使用している「ルール違反ゼロの六本木へ。」のマークとロゴではもの足りなさを感じる。

■「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

- ・企業と地域との連携をどのように進めていくのかということが疑問であり、課題でもある。
- ・防災について、年に一回、六本木中学校で総合防災訓練があるが、それを知らない人が多い。地域のためにもとても大切なことだという周知が大切。
- ・「防災」というテーマについては、色々な課題もあり検討するのが難しい。この事業のほかにも総合防災訓練が行われたりしているが、他の防災対策に変更していく必要があるのではないか。

■みんなでエコっとプロジェクト

- ・どのような取組をしているのか、文章・口頭の説明だけではイメージがわからないので、実際に見学に行く、参加する、または事業の実施状況についての動画を見せてもらうと分かりやすい。
- ・エコに対する取組が、学校教育のカリキュラムにあるのであれば重複した取組を行う必要はないと思う。もし、ないのであれば、まだまだ残っている麻布の自然を活用して、身近なところで自然を体験してもらうという取組をすれば、もっと負担が少なくできるのではないか。
- ・イベント内容について、エコとリサイクルを組み合わせた取組、特にリサイクルの一環として取り組むイベント等について検討していく必要がある。
- ・例えば、六本木のごみ問題等、地域をフィールドにした「環境・エコ」の取組を行ってもいいのではないか。

【分野Ⅱ にぎわうまち】

- ・「にぎわうまち」というキーワードに関する魅力として、大使館が多くグローバルなイメージ、麻布十番商店街を中心に活気があり、おいしいお店も多い、高級感と下町のギャップ、歴史・文化の街等があげられた。
- ・地域事業等についての情報発信が課題である一方、民間でも様々なイベントが行われている麻布地区では情報が多すぎて、その取捨選択をするのも難しく、情報の整理も必要になる。
- ・東洋英和等の学生のパワーも地域の資源として活用していけないだろうか。
- ・犬などのペットを連れて散歩をしている人が多い、ペットとまちと人が触れ合う、そんな機会を創出できると良い。
- ・地域を代表する資源でもある有栖川宮記念公園を大切にしていって、例えば環境美化・清掃活動等と組み合わせたイベントを実施する等、より良いまちづくりに向けた楽しいイベントがあればよい。

■ミナヨク

- ・次世代リーダーの育成が目的となっているが、その部分ができているのかが課題。
- ・目的を達成しているかの検証を行う必要がある。例えば修了生を対象としたアンケート等。
- ・開催日時について調整行い、土曜日の午後開催となっているが、20代から40代の方には厳しい時間帯かと思う。
- ・1クールのみでの参加、リピートして参加できないというなかで、6回のプログラムで良い提案をつくり上げる、次世代リーダーを育成するというは難しいのではないか。
- ・修了後の活動等についていろいろな課題がある（修了生がその後、どのような活動をしているのか等の情報を区がしっかり把握する必要がある）。
- ・目的に対しての課題はあるが、事業としては継続の方向でいいのではないか。

■AZABU WORLD FESTA

- ・分科会での提案をもとに実施されている事業だが、思っていたものと相違がある。
- ・これまで実施していた単発のイベントではなく、一定期間開催し、たくさんの人を呼び込める取組という部分は良いと思う。
- ・平成30年度に試行実施したスタンプラリーについては、事業名称ともしっかりこないうえ、協力してくれる店舗側にデメリットが多くあるようなので、別の方向性を検討すべきではないか。
- ・日本の文化（麻布にまつわる落語等）と外国の文化を組み込んだイベントづくりを検討してみてもどうか。
- ・小鹿野町との交流は、「地方交流事業」として扱うべき。

■麻布未来写真館

- ・事業開始から長期にわたり継続しており、事業の目的とも合致した取組になっている。
- ・常設展示も企画展示も実際にパネル展を開催している期間に、その場所にいかないともみることができないという課題がある。その課題を解消するためにデジタル化とWeb上での公開をより進めていくべきだと思う。
- ・展示されているパネルの説明だけでは分からないことが多いので、ガイドを付けて見ることができると良い。または、ガイドの方が麻布未来写真館のパネルを活用できるようにしたら良いと思う。
- ・テーマやコンセプトを前面に打ち出したパネル展やパネル作成を行うことで、面白味が増すのではないか。
- ・集客や周知を考えるのであれば、六本木ヒルズなど人が多く集まる場所をパネル展の会場として検討してはどうか。人が多く集まる場所で、しっかりと集客することによって「麻布未来写真館」の良いところを伝えられるのではないか。
- ・SNSでハッシュタグ付きの投稿をする人が多いので、それをうまく活用して、参加型のパネル展等を実施したら楽しいイベントになるのではないか。
- ・企業へのパネルの貸出しや鉄道駅等への掲出を検討してみてもどうか。

【分野Ⅲ はぐくむまち】

- ・年代別に分けた取組になってしまっているのが、多世代にわたる事業を創出したほうが刺激的で良いと思う。
- ・「はぐくむまち」のテーマでもある「福祉」について、高齢者だけではなく、障害者の視点も意識して検討したい。
- ・どの事業についても、今後も継続していいと思うが、+αの提案をしたいという意見が出た。

■地方交流事業

- ・参加している子どもたちを中心に良い感想があげられているので、取組の方向性、考え方としてはいいと思う。
- ・区民アンケートによる評価ではなく、この事業の対象者に対してのアンケートを行うことにより、しっかりとしたフィードバックを得ることが必要。
- ・サマースクールについては、区が全額負担する部分ではないということで、事業費の内訳を合わせて説明していただきたいと思う。
- ・以前は、リピーターが多いのではないかと、区外の方が参加しているのではないかと指摘が出ていたようだが、現在は麻布地区での募集、公開抽選を行い、参加者を決定しているので改善されているのではないかと。
- ・小鹿野町との交流事業の事業費については、現状「AZABU WORLD FESTA」に計上されているとのことで、その部分については整理が必要。

■地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～

- ・麻布地区にある4か所のいきいきプラザで開催している「ちょこっと立ち寄りカフェ」の参加者の約7割がリピーターということで、もっと参加者を増やしていきたい。
- ・参加者の男女比が1：9という状況にある。男性の参加を増やす工夫をすることで、雰囲気も変わってくるのではないかと。「麻布の魅力探訪事業」で扱っている歴史や地図等テーマは男性が好むものなので、バランスを考えたテーマを盛り込むことで男女比の課題が解消される可能性があるのではないかと。あわせて、「ちょこっと立ち寄りカフェ」と「あざぶ達人ラボ」がより一層連携できるのではないかとという意見も出た。
- ・NPO法人が継続的に運営を受託している良い面として、過去の状況等をしっかり把握できている。また、高齢者福祉を意識したNPO法人が受託しているという面は良い。一方、新しいアイデアが生まれてこないという弊害もあるかと思うので、この分科会で新しいアイデアを提案できたらいいと思う。
- ・高齢者だけを対象にするのではなく、障害者等も含めた取組、共生やバリアフリーの視点を意識した取組の推進は、この事業で対応できる課題だと思うので、ぜひ実現させたい。

■麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～

- ・実際に活動をしているのを見て、参加者の熱意も感じ、取組自体はいいと感じた。
- ・麻布の魅力を探訪する活動（まち歩き等）が平日の昼間ということだと、若い人はまず参加できない。せっかく良いコンテンツがあるのに、うまく使うことができていない。
- ・「ラボ」については、「ミナヨク」と似たようなところがあるので、連携が出来る部分があるのではないかと。
- ・この事業でつくり上げたアウトプットとして「マップ」等があるが、それが全く生かされていないように思う。例えば、学校の授業で地元の歴史や地域に関する自由研究を行ってみましょうという課題があるので、それと紐づければ自然と魅力を若いうちから勉強する機会に繋がっていくのではないかと。